

耐震診断結果の見方

- ① 「耐震診断の方法」を確認し、「附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価」の中から同じ「耐震診断の方法」の欄を探します。
- ② 「評価の結果」の数値が、附表のどの部分に当てはまるか確認します。
- ③ あてはまる欄の上部に「安全性」のレベルが記載されています。
- ④ 建築物によっては、結果の算出に使用した数値が異なっていたり、建物の場所によって評価方法が異なっていたりします。その場合、備考欄に補足説明がありますので、ご確認ください。

要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断の結果

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
〇〇	〇〇小学校	仙台市〇〇区〇〇 〇丁目〇〇番〇〇	学校	① 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	② Is/Is ₀ = 1.12 C _T ·S _D = 0.45		④	Is ₀ = 0.7として診断
	校舎1			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	Is/Is ₀ = 1.00			Is ₀ = 0.7として診断
	校舎2			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	Is/Is ₀ = 1.00			Is ₀ = 0.7として診断

同じ名称の「耐震診断の方法」を探します。

「評価の結果」の数値が、附表のどの部分に当てはまるか確認します。

この部分が「安全性」のレベルです。

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	③ 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	Is < 0.3 又は q < 0.5	左右以外の場合	0.6 ≤ Is かつ 1.0 ≤ q
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	-	-	1.0 ≤ Is/Is ₀
① 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	Is/Is ₀ < 0.5 又は C _T ·S _D < 0.15	左右以外の場合	② 1.0 ≤ Is/Is ₀ かつ 0.3 ≤ C _T ·S _D ≤ 1.25 1.25 < C _T ·S _D

用語の説明

「Is」: 構造体の耐震性能を表す指標 (この値が大きいほど耐震性能が高い)

「Is₀」: Is 値の判定基準となる目標値 (一般的には 0.6)

「q」、「C_T·S_D (C_{TU}·S_D)」: 構造体の粘り強さ、建物の平面・立面形状から求められる指標 (この値が大きいほど耐震性能が高い)

「Z·G·U (Z·R_t·G·U)」: Z 地域特性 (地震活動度等)、G 地盤特性 (地形等)、R_t 建物の震動特性、U 建物重要度等から目標値を補正するための指標 (補正がない場合は 1.0)